

平成 21 年 12 月 1 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会



1 日 時 平成 21 年 12 月 1 日 ( 火曜日 )

午後 1 時 30 分から午後 4 時 30 分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席委員

委員長 大橋 岑生 委 員 内藤 博子 委 員 中村 美和

委 員 羽賀 友信 教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育部長 野口 正巳 教育総務課長 押見 康雄

学務課長 武樋 正隆 学校教育課長 腮尾 理

子ども家庭課長 矢沢 康子 保育課長 若月 和浩

中央公民館長補佐 東樹 隆志 中央図書館長 小野田 信子

科学博物館 山屋 茂人 教育センター所長 山岸 文夫

学校教育課主幹管理主事 星野 和人 学校教育課主幹兼管理主事 島倉 昭弘

5 事務のため出席した者

教育総務課庶務係長 新沢 達史 教育総務課庶務係 小川 瑞穂

## 6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2		委員長の選挙
3		委員長職務代行者の指定
4	第 57 号	平成 22 年度当初予算の要求について

## 7 会議の経過

(大橋委員長) これより教育委員会 12 月定例会を開会する。

---

### 日程第 1 会議録署名委員について

(大橋委員長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第 2 項の規定により、羽賀委員及び加藤委員を指名する。

---

### 日程第 2 委員長の選挙

(大橋委員長) 日程第 2 委員長の選挙を行う。私の委員長としての任期が 1 月 4 日をもって満了するため、この 12 月定例会で次期の委員長選挙を行うこととする。選挙の方法については、会議規則第 1 条の規定により、投票又は指名推選のいずれかの方法によることとなっている。投票による選挙は、委員の互選とし、無記名で投票を行い、最高票を得た者をもって当選人とする。また、指名推選の場合は、出席委員全員の同意を必要とする。いずれの方法がよいか。

(内藤委員) 指名推薦の方法がよい。

(大橋委員長) ただいま内藤委員から「指名推選」の方法でという意見があったが、他に意見・異議はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ほかに意見・異議がないようなので、委員長選挙は指名推選の方法で行うこととする。それでは、指名推選の発言をお願いします。

(内藤委員) 大橋委員長がよいと思う。

(大橋委員長) ただいま内藤委員から、委員長に「大橋」という意見があったが、他に意見はあるか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようであれば、私、大橋ということで異議はないか。

[全員一致で「異議なし」]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって私、大橋が委員長に選任された。

(大橋委員長) 教育委員会を活発なものとなるよう見直しを行い、事務局の考えを追認するだけではなく、自ら勉強しなければならないという声を聞く。そういうものも併せながら精一杯努める。よろしく願います。

---

### 日程第3 委員長職務代行者の指定

(大橋委員長) 日程第3 委員長職務代行者の指定を行う。委員長が改めて選任されたため、次の委員長職務代行者の指定についても改めて審議する。職務代行者は会議規則第2条の規定により、委員長の推選により委員会が行うことになっている。そこで、第1順位は内藤委員、第2順位は羽賀委員を推選する。これに異議はあるか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって第1順位は内藤委員、第2順位は羽賀委員に決定した。

---

### 日程第4 議案第57号 平成22年度当初予算の要求について

(大橋委員長) 日程第4 議案第57号 平成22年度当初予算の要求について を議題とする。事務局の説明を求める。

(野口教育部長) 【議案書により説明】

(押見教育総務課長) 【議案書により説明】

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 11月定例会において、教育総務課の新規事業として示されたのは、宮内中学校の校舎改築と、養護学校校舎の増築であった。しかし、資料の事業区分には継続となっている。継続、新規、拡充について、説明をお願いします。

(押見教育総務課長) 宮内中学校については、改築を進めるにあたり、平成19年

度には校舎耐力度調査や基本構想、20年度には測量、地質調査、基本計画、21年度は基本、実施設計など事業としては進めてきていた。あわせて学校や地域と検討会を並行してやってきた。校舎を建てることについては、新年度からとなるため、新規事業として説明をした。

(大橋委員長) 養護学校の代替グラウンドの整備については、承知したが、新しいグラウンドの用地買収についてはどのようになるのか。

(押見教育総務課長) まだ白紙である。場所等についても確定していない。ただ、今の校舎の北側か、南側で新しい土地を求められればよいと考えている。

(大橋委員長) 校舎増築、それに伴う代替グラウンドの整備は来年度行うが、新しいグラウンドについては今後のことということでよいか

(押見教育総務課長) そうである。

(羽賀委員) 防火シャッターの不具合が多いというのは、自動か手動か。

(押見教育総務課長) 自動である。老朽化とともにうまく作動せず、急に落ちることがある。

(羽賀委員) IS値の基準の説明をお願いします。

(押見教育総務課長) IS値0.7を基準と考えており、その数値に近づけたいと考えている。以前、IS値0.3以下は耐震化工事を行うと市長が会見を行い、その方針に基づき、事業を進めている。

(加藤教育長) 「IS値」は頭文字をとっており、日本語では耐震診断スコアである。0.3未満は、中越大震災規模の地震が起きると倒壊の恐れがあるとのことである。国が耐震補強するよう指導している。数値が低いところも、実際のところ、2度の震災を乗り越えている。

(大橋委員長) 他に質疑、意見がないようなので、次に学務課の説明を求める。

(武樋学務課長) 【議案書により説明】

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(羽賀委員) 学校給食リサイクルについて、越路・小国地域だけは、23年度実施予定とあるが、どのような理由か。

(武樋学務課長) いずれはすべての地域に拡大したいと考えている。たとえば、越路西小学校は地域にある肥料会社が直接リサイクルを行っている。来年度は73の

施設で行うこととしている。

(大橋委員長) 23年度から拡大を検討することでよいか。

(武樋学務課長) そうである。今年も試行的に11月から無償でNPOが回収をしている。

(大橋委員長) 新規事業で、望ましい教育環境整備検討事業とあるが、非常に地域性に関係しており、関原・日越地域や、拡大をしている富曾亀、希望が丘、栖吉地域もあると思うが、適正規模の学区編成は、長岡市の今後にとっても重要である。ぜひ、市民や地域の声を吸い上げてほしい。実は、関原・日越地域の人の声がよく耳に入る。地域の方の意見等はわからないが、声を聞いて進めてほしい。また、前々から中心地域の学校の適正区域についても検討があったかと思うが、非常に大切な部分であり、大事に進めてほしい。

(加藤教育長) 関原・日越の状況について解説をお願いします。

(武樋学務課長) 日越地区の上除町の一部が関原小学校へ行くほうが、通学距離が近いので、学区は日越小学校だか、平成16年4月から許可区域として、学区外通学を認めている。許可区域については、市内に32地区がある。日越地区については、関原小学校に行く子どもが多く、このままでは日越のコミュニティーの運営が難しくなるとの声がある。年々、関原小学校へ行く子どもが増えており、町内会・子ども会として運営が大変であるため、なんとか日越小学校へ行ってほしいと町内の人の考えがあり、許可区域の町内にも日越小学校へ行くようにしてほしいとの話がある。ただ、許可区域については、子どもの通学距離、時間など考慮して設定しており、平成16年度に新たに設定した経緯があるが、その前年には、趣旨を説明し、町内合意の上で申請をしてもらい、設定している。申請から5年たって、町内の運営という面で、工夫しづらいとの声があがってきた。

(加藤教育長) 誰の目から見ても、近い学校があるにも関わらず、学区の指定があるため、遠くの学校に通わなければいけないということが、平成15、16年に話があがった。それであれば、町内で話し合いをし、学区はそのままであるが、近い学校に通ってもよい、つまり許可区域として指定してほしいとの申請をあげてもらった。町内の話し合いについても、町内会長、保護者など全ての人で話し合い、許可区域として設定をした。あくまでも「行ってもいい」というものであり、

もちろん正規の学区の学校に通う子どももいる。ただ、日越については、思いのほか関原小学校へ行った。町内のコミュニティーの運営面で苦勞という話の背景として、地域住民の仲も関係している。コミュニティーはあくまでも地域のもの。選ぶのは親であり子である。「許可区域」は学区外の学校へ行きなさいというものではないことを、誤解のないようにしてほしい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見がないようなので、次に学校教育課の説明を求める。

(腮尾学校教育課長) 【議案書により説明】

(大橋委員長) 今回全体を見て、ほぼ今年度と同様である。重点に置くものはなにか。県の中越大震災復興補助金が見つからないため、苦慮した結果ということは、理解した。予算増になっているのが、熱中！感動！夢づくり推進協議会経費である。これについては、5年経過し、新たな内容の検討にはいるためか。あわせて、アカデミーの数学、イングリッシュの予算が減っている原因はなにか。

(腮尾学校教育課長) 熱中！感動！夢づくり推進協議会については、校長先生を中心に組織しているもので、人件費が主である。今回の増額は、保険の負担がアップしたためであり、内容はかわらない。数学アカデミー、イングリッシュアカデミーは、切り詰めて行うものである。基本的に、今年度の予算が上限ということがあり、そのため今年度予算と同額の中で切り詰めて行う予定である。復興基金については、併せて2億円くらいあったため、非常に厳しい状況である。

(加藤教育長) イングリッシュ、数学アカデミーについては、宿泊を減らしたり、近場で行ったりということを担当は考えているようである。復興基金がなくなり介助員等を市でまかなうこととなる。結果どうなるかわからないが、最大の努力をしていくつもりである。学校の話を知るとすぐに「人・金・物」という。介助員が正規の先生よりも多いなんて状況も生まれかねない。先生は、教えるプロである。人を配置した成果を学校から示してもらう必要があるのではと考える。

(内藤委員) 先日、柿小学校を訪問した際には、通級から普通教室で授業ができるようになったと話を聞いた。

(加藤教育長) 成果がわかれば財政にも言いやすい。財政担当は教育者ではないため、成果がなければ伝わらないだろう。

(大橋委員長) 今の学校の現状、人員配置等について、中村委員の考えはどうか。

(中村委員) クラスに子供が大勢いる中で、介助が必要な子がいるときは助かっていると、授業参観等で感じることもある。

(大橋委員長) 介助が必要な子ども一人に対し、介助員一人。配慮しすぎている部分もあるので考えなければいけない。

(加藤教育長) 新年度の配置については、ある程度の基準を設け、それに沿って配置を行い、その他については、個別で相談をしてもらう方針にしなければいけない。ただし、相談に応じた結果が一人につき、一人の介助員ということであろうから気をつけなければならない。介助が必要な子どもは介助員にまかせて、ほかの子どもを先生が見る。本来は逆であるはずだ。先生を過保護にしているのでは。

(中村委員) 子どもに対しては、過保護にしている部分は確かにあると思う。

(野口教育部長) 長岡市が介助員の制度をはじめたときは、7対1からスタートした。昭和56、57年に導入した。子どもの状態も変わってきている。現場の声を聞き、きちんと受け止め、やさしい配慮をし、実態にあった配置を行ってきた結果、場合によっては1対1という学校もあるようになった。先ほど教育長から話のあった「成果」について、どのように検証していくか考えていかなければならない。

(大橋委員長) 錬成塾等もあり、教員へのサポートも多く、決して教員の質は落ちているわけではないと思う。長岡市の教育委員会の配慮はありがたいという声は本当によく聞く。復興基金がなくなり、市が全部負担するとなると、人が多ければよいということにはならないであろう。ぜひ、検証を続け、いい形で続けてほしい。

(羽賀委員) 心のケアの問題について、内容の説明をお願いします。

(腮尾学校教育課長) 19人中、いわゆるPTSDといわれている子はいない。その傾向がある子が2、3人いるとのことである。

(中村委員) 部活動遠征費補助事業について、どのくらい利用されているのか。

(腮尾学校教育課長) 今年は19の部活で使用。昨年度は30の部活が使用した。今年度は、インフルエンザの関係で週末の大会に行かなくなったことが活用が減った原因と考えられる。

(中村委員) 保護者への周知はどのようになっているのか。

(腮尾学校教育課長) 学校から保護者に話をしている。ひとつの部活につき、1回助成を行う。

(中村委員) 学校で1回ではなく、部活で1回なのか。

(加藤教育長) ひとつの学校で部活動が5つあればそれぞれ1回ずつ助成できる。

(腮尾学校教育課長) 1年目は周知が足りない部分があったが、今年は、中学校の大会を行っている中体連にも話をしていて、中体連に話をすることが、一番早く周知される。金額が少ないのか、助成割合が少ないのか検討をしていかなければならない部分である。

(中村委員) 保護者に事後報告があるとありがたみがある。

(腮尾学校教育課長) 申請者は保護者代表である。保護者も周知しているはずである。

(羽賀委員) どうして応募が少ないのかという理由で、利便性で保護者が自分たちの車を使っていることが多いということと、大型バスではなく、もっと小さい車を借りていることが多いだろうと考えられる。これから検討する必要がある。

(腮尾学校教育課長) 実は、昨日「熱中！感動！夢づくり推進会議」があり、羽賀委員にも出席いただき、事業について中間報告があった。ほとんどが、A評価であったが、この事業に関してはC評価であった。出席校長からは、比較的少ない人数の部活の場合、自家用車を使用したりするため、この制度を使う必要がないとのことであった。

(中村委員) どの部活が使っているか知りたい。

(腮尾学校教育課長) 後日まとめた上で報告する。

(大橋委員長) 他に質疑、意見がないようなので、次に子ども家庭課の説明を求める。

(矢沢子ども家庭課長) 【議案書により説明】

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 拡充事業が多い。臨床心理士、福祉専門相談員等、専門職員が指導に入るようだが、長岡市にいるのか。

(矢沢子ども家庭課長) 資格を持っている方は多くはない。やっとお願している状況。子育てに関しても専門的な力が必要になっている。

(大橋委員長) 新潟大学医学部等の連携はあるのか。

(矢沢子ども家庭課長) アドバイスということであれば、連携をとっている部分も

あるが、年何回か来ていただくとなると、同じ人をお願いしたいと考えている。人選は非常に大変である。

(羽賀委員) 多世代交流館のにな二ーナについて、市民協同の重要なもの。事業を進めるにあたり、市民協同についてもぜひ大切にしてほしい。

(矢沢子ども家庭課長) 教育委員会で行う事業のため、子育てを切り口になっている。

(羽賀委員) にな二ーナでは、母親教育、父親教育を非常にいい形でいっている。その点も参考にしてほしい。

(内藤委員) てくてくでも、親の情報交換、親同士の交流なんかもしているようだが、その点を大事にしてほしい。新規事業として、子育て支援センターの人件費も保育士や専門士になるのか。

(矢沢子ども家庭課長) 国からの補助があり、保育士の配置が基準になっている。

(大橋委員長) 放課後子ども教室は、今年度は7校で、来年度三島地域で事業を行うとの事。この事業は県の補助があって運営しているとおもいますが、今後の見通しとして多くしていったほうがいいのか、それともコミセン等との兼ね合いなどがあり難しいものなのか。

(矢沢子ども家庭課長) もともとは小学区に1つで国が進めてきた。全国を見るとかなり進んできている。長岡は、放課後子ども教室ができる前から、いろいろな形で子育てをしている。市立小学校区に1つではなく、実態を見ながらやっていくつもりである。子ども会の数は県下1位、全国的に見ても活発である。

(大橋委員長) 地域性も大事にしてほしい。

(内藤委員) 黒条地域の人口が増えてきて、今後も増加の見込みがあるとのことだが、児童館の増設について、プレハブで対応することでもいいのかどうか。また、増加傾向が終了した後について、プレハブは継続して利用するのか。

(矢沢子ども家庭課長) これまで児童クラブについて、増築はプレハブ対応している。黒条地域については人口の増加が確定していることと、コミセンとしての増設であり、コミュニティセンターとしても利用できるため、少し難しい判断である。

(加藤教育長) 現在のプレハブは避難所でも使用したが、新しくできた法務局も一種のプレハブと聞いている。よく調べてみる必要があるだろう。

(大橋委員長) 他に質疑、意見がないようなので、次に保育課の説明を求める。

(若月保育課長) 【議案書により説明】

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(中村委員) 認定子ども園について、詳しい説明をお願いします。

(若月保育課長) いろいろな形態があるが、保育園と幼稚園が一元化したもので、保育もしながら教育を行うものである。文部科学省と厚生労働省の壁を取り払い、一元化した環境のもとに子どもを預かるものである。

(中村委員) 具体的に何を整備するのか。

(若月保育課長) 具体的には、幼稚園には給食設備がない。保育をするとすると11時間保育が必要となり、給食設備が必要となる。また、幼稚園は3歳からの入園となるため、3歳未満の子どものための対応施設を新たに整備するもの。太陽幼稚園については、新たに新築をしたばかりで、子ども園を前提に建築したため、給食施設や、未満児対応施設がすでに整備されているため、金額にかなりの差がある。

(羽賀委員) オートロックの整備が2園ある。小学校はすべて施錠しているが、保育園はまだオートロックの対応をしないのか。

(若月保育課長) どの保育園も玄関と教務室が近い。職員が多いと、勤務の時間帯がずれるため、必要になってくることもある。全園必要とは考えていない。

(大橋委員長) 遊具の安全点検について、基準が変わったのか。小学校はともかく、保育園には必要なのでは。

(若月保育課長) 遊具があることはいいが、ないからといって保育ができなくなるわけではない。遊具がなければ、ないなりに遊ぶ。最低限はそろえたいと考えている。

(大橋委員長) 長岡の公園の遊具のほとんどが押さえられていて、使えない状況であるが、どの程度なのか。

(若月保育課長) 公園施設について6割は使用不可。保育園は4割が不可である。運動量が減るわけではなく、工夫をして遊んでいるようである。

(大橋委員長) 他に質疑、意見がないようなので、次に中央公民館の説明を求める。

(東樹中央公民館長補佐) 【議案書により説明】

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。次に、中央図書館の説明を求める。

(小野田中央図書館長) 【議案書により説明】

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 子ども読書活動推進計画策定事業について、長岡市は学校・ボランティアが一生懸命である。図書館との動きをみると、一貫性がない感じを受ける。ぜひ、まとまりのある活動にしてほしい。

(小野田中央図書館長) いろいろなところで一生懸命やっているが、全体としてなかなか見えてこない。お互いに連携できる部分を明らかにしていきたい。

(大橋委員長) 今年度は、イベント・作品展等がたくさんあり大変であったが、来年度は粛々と事業を進めていくのか。

(小野田中央図書館長) 基本のサービスを、拡充して行っていく。

(羽賀委員) 全国的に図書館利用が増えていると聞くが、長岡市もそうか。

(小野田中央図書館長) 貸出数だけを見ると、年間 11 万冊増えている。この冊数は、互尊文庫の 1 年間の貸出数とほぼ同じで、つまりひとつの図書館分の貸出が増えていることになる。貸し出しが増えれば、貸出以外のいろいろなサービスの要求が増えている。

(羽賀委員) 野本恭八郎がすすめた「互尊独尊」は、長岡の文化財であると考えている。ぜひ、市民に深く広めてほしい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見がないようなので、次に科学博物館の説明を求める。

(山屋科学博物館長) 【議案書により説明】

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(羽賀委員) 馬高縄文館について、春分、秋分の日には太陽が見えたという話をきいたが、それを体験できるような施設になるか。

(山屋科学博物館長) 現在は、多少ずれているようである。ただ、縄文人が見たであろう景色はイメージしている。

(羽賀委員) 海牛について、全国 3 体しかないと聞いた。

(山屋科学博物館長) 3 体しかない中で、長岡は比較的大きいものである。できれば海牛サミットの的なものを考えている。

(内藤委員) 水族館の裏側を見学させてもらったが、この科学博物館分の熱中！感動！夢づくり推進事業については、ぜひ継続してほしい。

(山屋科学博物館長) 年々拡大しながらやっている。来年度については、直接学校へ出かけて行う予定である。

(大橋委員長) 科学博物館や郷土史料館など継続的に特別展を行っている。関心を持っている子どもには大切である。

(山屋科学博物館長) 博物館について、全国的に展示のマンネリ化が課題となっている。頻繁に変えて、いつでも新しい博物館にしたいと考えている。

(大橋委員長) 他に質疑、意見がないようなので、次に教育センターの説明を求める。

(山岸教育センター所長) 【議案書により説明】

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。では、これより採決に移る。本件は原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり決定した。

---

(大橋委員長) 本日の日程は終了する。次に協議報告に入る。熱中！感動！夢づくり教育の中間評価結果について、事務局から説明を求める。

(腮尾学校教育課長) 昨日、熱中！感動！夢づくり推進会議を行い、中間評価を行った。事前に事業を行った課から評価をしてもらい、A評価が49事業で82%、B評価が9事業で15%、C評価が2事業で3%となった。担当課長からはB、C評価の事業を中心に話をしてもらった。担当課からの反省点について改善をし、反映したいと考えている。来年度、内容を変更するものについて、別紙にまとめてある。評価終了後、フリートークで意見をもらった。ある中学校長からは家庭の教育力に力をいれるべきとの意見があった。また、ひきこもりが増えているのは、小・中学校からの不登校が影響していることが多く、「サポートステーション」のようなものができる

よいとの意見もあった。

(大橋委員長) 質疑、質問はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。では次に、平成 21 年度第 3 回社会教育委員会、公民館運営審議会会議報告について、事務局の説明を求める。

(東樹中央公民館長補佐) 平成 21 年度第 3 回社会教育委員会、公民館運営審議会を平成 21 年 11 月 26 日、午前 10 時から午前 11 時 30 分にかけて、教育センターで行った。出席委員は 17 名で、まず、報告として委員の資質向上等のために参加した各種研究大会や研修会について報告があった。中でも、関東甲信越静社会教育研究大会については、詳しく報告があった。次に議題として、自主研究報告書について審議を行った。自主研究報告書については、委員が 2 年をかけて自主的にテーマを決め報告書を作成するもので、今回は「社会教育施設(各地域の資料館等)の原状及び課題について(仮題)」をテーマとし自主研修を 5 回実施した。主な意見として、「小中学校の社会科学習の一環で、資料館に入館する場合は無料である」という表現は、今後資料館を P R していくうえで大事であるというものなどがあった。

(大橋委員長) 質疑、質問はないか。

(加藤教育長) 社会教育委員会と教育委員会の意見交換が必要ではないか。今、子育てなど地域の力をお借りしている。年 1 回は行えるよう、事務局の検討をお願いする。

(大橋委員長) 他に協議報告はないか。

(大橋委員長) これをもって協議報告事項を終了する。

---

(大橋委員長) これをもって本日の定例会を終了する。

---



会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員